

# 文化会館



## オーケストラと友に音楽祭 2024

オーケストラと友に音楽祭(オケ友)は、2009年に誕生し第16回を迎えました。「議場」でのプレコンサートは高評価をいただき今回も開催しました。「音楽クリニック」は、地元の方が名フィルのプロの講師から直接教わることができる貴重な体験で、過去最高の受講者数を上回る231名の方に参加をいただきました。



## いいだ人形劇フェスタ 2024

いいだ人形劇フェスタ2024は、4日開催し、国内外から281劇団が参加、109会場で378回の公演をしました。観劇者総数は26,575人で、市民だけでなく、全国各地または海外からも友好提携を結んでいる韓国、台湾の他6か国7劇団が参加しました。伝統人形芝居、現代人形劇等様々な人形芸術に触ることができました。

# 令和7年度の文化会館運営

## 1 基本方針

文化会館は、市民との協働による地育力の向上を目指し、「舞台芸術の鑑賞と創造」と「人形劇のまちづくり」を二つの柱として、市民が様々な芸術文化と出会う場と機会を提供するとともに市民の主体的な文化創造活動の展開を支援する。

## 2 令和7年度の重点課題

- (1) 地域の音楽文化を高めるために、音楽を「楽しむ・学ぶ」をテーマに市民とプロオーケストラとの協働により開催する「オーケストラと友に音楽祭」の定着を図るとともに、策定した「将来ビジョン」の実現に向け、実行委員会と連携して進めていく。
- (2) 小中学校の舞台芸術鑑賞への支援のほか、舞台芸術の自主事業公演や、実演団体・グループ等への支援、伊那谷文化芸術祭などを通じて、市民の自発的・広範な文化活動を支援する。
- (3) いいだ人形劇フェスタ 2025 は「もっと わくわく」をテーマに、みる人、演じる人、ささえ人、それぞれがもっと楽しみ、もっと心おどる4日間になるよう取り組む。
- (4) AVIAMA（人形劇の友・友好都市国際協会）加盟都市など人形劇でつながる他地域との交流や連携を推進するとともに、「人形劇のまち飯田」の魅力を国内外に発信する。
- (5) 小中学校の人形劇活動への支援や、小学校、保育園、認定こども園への人形劇巡回公演の実施、竹田扇之助記念国際糸操り人形館や飯田市川本喜八郎人形美術館での学習の機会を通じて、子どもたちが人形劇に親しむ機会を提供する。
- (6) NPO 法人いいだ人形劇センターとの共同主催により、年間を通じて人形劇に関する情報発信及び多様な人形劇公演や人形劇講座による多様な交流の機会を提供し、幅広い市民層に人形劇の魅力を伝えるとともに、人形劇文化と地域文化の向上を図る。
- (7) 新文化会館の建設に向けて、専門家会議や整備検討委員会のほか、市民ワークショップも開催しながら、基本計画等の策定や建設候補地の選定を進める。

## 3 文化会館の概要

飯田文化会館は市民文化の向上と福祉の増進のため昭和 47 年 4 月 29 日に開館し、昭和 63 年 8 月 4 日に開館した人形劇場を包含して、それまでの貸館のみのサービスから自主事業の展開を中心とした事業館として体制を充実している。

事 項	文 化 会 館	人 形 劇 場
所 在 地	飯田市高羽町 5 丁目 5 番地 1	
敷 地 面 積	8,355.97 m <sup>2</sup>	
構 造	鉄筋コンクリート造	
建 築 面 積	2,769.85 m <sup>2</sup>	521.51 m <sup>2</sup>
延 床 面 積	5,440.58 m <sup>2</sup>	588.40 m <sup>2</sup> (収納庫含む)
工 期	着工 昭和 46 年 2 月 12 日	着工 昭和 63 年 2 月 5 日
	竣工 昭和 47 年 3 月 31 日	竣工 昭和 63 年 7 月 16 日
事 業 費	6 億 911 万 5 千円	2 億 2,375 万 6 千円(収納庫含む)

#### 4 利用状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
	件数	利用人員	件数	利用人員	件数	利用人員	件数	利用人員	件数	利用人員	
ホ ル	大会、講演会	29	1,078	40	3,476	32	11,166	17	6,558	22	11,137
	音 楽 会	35	5,412	23	9,632	38	18,955	46	26,177	58	25,058
	映 画 、 演 劇	15	1,758	12	2,151	11	7,421	17	10,270	24	12,176
	舞 台 の み	26	908	22	1,208	73	3,428	34	2,254	74	2,419
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小 計	105	9,156	97	16,467	154	40,970	114	45,259	178	50,790
人形劇場	大会、講演会	24	490	20	567	20	864	6	484	6	456
	音 楽 会	34	991	25	2,442	37	3,663	34	2,351	33	3,093
	映 画 、 演 劇	14	858	15	1,961	28	2,831	42	3,391	78	3,586
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小 計	72	2,339	60	4,970	85	7,358	82	6,226	117	7,135
会館棟	営 業 用 展 示	24	705	22	1,665	25	1,594	58	1,420	41	1,355
	一 般 展 示	0	0	0	0	0	0	2	679	2	296
	研 修 、 集 会	496	14,977	494	14,555	624	24,530	683	13,916	574	24,755
	そ の 他	0	0	3	241	0	0	0	0	0	0
	小 計	520	15,682	519	16,461	649	26,124	743	16,015	617	26,406
そ の 他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		697	27,177	676	37,898	888	74,452	939	67,500	912	84,331

(自主事業含む)

## オーケストラと友に ~アフィニスのふるさと飯田音楽祭~ 参加・入場者数記録

### ■参加者・入場者数(人)

## オーケストラと友に ~アフィニスのふるさと飯田音楽祭~ 参加・入場者数記録

### ■ 参加者・入場者数(人)

内 訳  年 度	実施期間 (音楽祭のみ)	音楽クリニック																		合 計	備 考	トピックス																	
		中学校吹奏楽コース		高校生吹奏楽コース		弦楽器初心者合奏コース(オーケストラ体験コース)		弦楽器クリニック		ドラムクリニック		アンサンブルコース		大人の吹奏楽コース		指揮者クリニツクコース		クリニツク小計		音楽クリニック聴講		基礎コース		名曲コンサート		小学生のための音楽ひろば		音楽講座		コミニティーコンサート		そよ風☆コンサート		議場de名ファイルアンサンブル		にこにこステージ音楽祭スペシャル			
		学校数	人数	学校数	人数	コース数	人数	コース数	人数	コース数	人数	コース数	人数	コース数	人数	会場数	人数	団体数	人数					会場数	人数	会場数	人数	会場数	人数	会場数	人数	会場数	人数	会場数	人数				
音楽祭2023 (第15回)	5/3~6	10	78	4	59	12	26	-	-	-	55	-	230	66	2	189	16	-	-	1,085	-	677	-	2	528	7	905	76	-	660	293	4,725	コロナ禍を経て感染症対策を取りながら4年ぶりに通常開催した。 名曲:バレエ組曲『くるみ割り人形』、トランペット協奏曲／アルチュニアン(Tp:児玉隼人) コミニティー会場:平谷村交流ホール、飯田市としても初の取組みとなる飯田市議場での「議場de名ファイルアンサンブル」を開催。 音楽ひろばの楽器体験を感染症対策をとりながら再開。音楽クリニックでは参加者数が過去最高となった。						
音楽祭2024 (第16回)	5/3~6	13	103	4	54	4	25	-	-	-	45	-	231	114	2	232	14	-	-	1,126	-	699	-	2	600	9	1,254	78	95	811	363	5,617	名曲:無窮動、ラプソディー・イン・ブルー(Tp:児玉隼人)、交響曲第8番ト長調／ドヴォルザーク コミニティー会場:天龍村文化センターなんでも館、飯田市丸山小学校体育館 オーケストラの裏側で働く人をにスポットを当てた「オーケストラで働く人たち」を新企画。						

トピックス

## 6 令和7年度 飯田文化会館事業計画

令和7年5月1日現在

期 日	事 業 名	内 容
4月13日	人形劇定期公演【2025年4月】	地元劇団による定期的な人形劇公演。
5月3～6日	オーケストラと友に音楽祭2025	アフィニス夏の音楽祭の20年間の成果を活かし、プロ・オーケストラ(名フィル)と市民の共同作業により、「楽しむ」「学ぶ」「広げる」をテーマとして創り上げる音楽祭。
5月11日	人形劇定期公演【2025年5月】	地元劇団による定期的な人形劇公演。
5月14日	人形劇初級コース	人形劇初心者、人形劇の経験の少ない方向けの人形作りから上演までの講座
5月18日	オーケストラと友に音楽祭 基礎コース	演奏に必要な基礎の取得を目的に、プロ演奏家から楽器の構え方、楽器の手入れの仕方、基礎的奏法、基礎練習の仕方などを学びます。
5月25日	コンサート ア・ラ・カルト VOL.81「フレッシュ・コンサート」	飯田・下伊那地域出身者で、主に音楽大学等を卒業された若手の皆さんと地元で活躍されている皆さんが出発するミニ・コンサート。
7月5日	森のかみしばい劇場	飯田下伊那の紙芝居・読み聞かせグループによるジョイント公演。
7月18日、19日	プレフェスタ2025	人形劇フェスタのイベントとして、市内各所で人形劇公演を開催する。
8月7日～8月10日	いいだ人形劇フェスタ2025	市民がつくる国内最大の人形劇の祭典。全国各地から約240劇団が参加し、市内各所で約400ステージ以上の人形劇公演を繰り広げる。公演以外に、人形展示、ワークショップなど様々な企画を実施。
8月30日	にこにこステージ vol.73	普段コンサート会場に来られない0歳～の子どもと、お父さん・お母さんが一緒に楽しめる企画。
9月～11月	特別展「項羽と劉邦展」	川本喜八郎人形美術館で開催する、川本喜八郎が実現を夢見てつくり続けていた人形とその資料を展示
9月7日	飯田フォーカフェスタ vol.5	70年代にフォークファンを魅了した豪華アーティストが出演。
9月14日	人形劇定期公演【2025年9月】	地元劇団による定期的な人形劇公演。
10月5日	コンサート ア・ラ・カルトVOL.82「秋の彩」コンサート	飯田・下伊那出身あるいは在住の皆さんの演奏に加え、プロの演奏を楽しむミニ・コンサート。
9月28日、10月13日 日、19日	ダンボールししまいワークショップ	ダンボールで獅子頭をつくり、オリジナルの舞を舞う体験ワークショップ。講師は獅子を舞う男・後藤渉。
10月13日	人形劇定期公演【2025年10月】	地元劇団による定期的な人形劇公演。
10月下旬、11月下旬	人形劇短期講座	人形劇の技術を習得するための、さまざまな講座を行います。
11月3日	人形劇 in 丘のまちフェスティバル	中心市街地のイベントに合わせて行うアウトドアプログラム。
11月2、9、16、23日	第39回伊那谷文化芸術祭	地域で活動しているアマチュア舞台芸術家が一堂に会し、日ごろの練習の成果を発表しあうとともに、相互交流を図ることを目的に開催。
12月7日	コンサート ア・ラ・カルト VOL.823「クリスマスコンサート」	飯田・下伊那出身あるいは在住の皆さんの演奏を楽しむミニ・コンサート。
12月3日	にこにこステージ vol.74	普段コンサート会場に来られない0歳～の子どもと、お父さん・お母さんが一緒に楽しめる企画。
12月7日	森のばかばかクリスマス	親子向けの人形劇公演とクリスマスリース作り。休日を家族と一緒に過ごしてもらうための企画。 出演:ヨシダ人形劇
12月14日	人形劇定期公演【2025年12月】	地元劇団による定期的な人形劇公演。

期 日	事 業 名	内 容
12月20日、21日	ましゅ &Keiのクリスマス会	飯田市を拠点に活動する道化師ましゅ &Keiがゲストを呼んでお送りするクリスマス公演。ファミリー向けとオトナ向けの2公演を実施。
12月28日	飯田信用金庫presents 第22回萩元晴彦ホームタウンコンサート	故 萩元晴彦さんの遺志を引き継ぎ、室内楽の感動を多くの方に届けたいと、飯田信用金庫との共同主催によりお届けする室内楽コンサート。
1月10日	初春を寿ぐ竹田人形館	初春にふさわしい人形芝居の公演。 出演:ヒトカタ座
1月25日	人形劇定期公演【2026年1月】	地元劇団による定期的な人形劇公演。
2月中旬	第22回いいだ人形劇まつり「りんごっこ劇場」	市民劇団が企画・運営する人形劇まつり。
2月中旬	保育士人形劇研修会	飯田市公立保育園の保育士による上演。
3月14日	J-POPライブ	調整中
3月15日	人形劇定期公演【2026年3月】	地元劇団による定期的な人形劇公演。
3月予定	にこにこステージ vol.75	普段コンサート会場に来られない0歳～の子どもと、お父さん・お母さんが一緒に楽しめる企画。
調整中	第46回 市民落語鑑賞会「おいでなんしょ寄席」	飯田市出身で寄席文字の第一人者、故 橋左近師匠プロデュースによって平成元年から開催してきた地域寄席。
通年	人形劇の相談所	人形劇制作に取り組んでいる方のためにようす相談所を開設。

飯田文化会館ホームページ <https://www.city.iida.lg.jp/site/bunkakaikan/>  
 いいだ人形劇フェスタ公式ホームページ <https://www.iida-puppet.com>  
 オーケストラと友に音楽祭公式ホームページ <https://www.iida-oketomo.com/>  
 飯田文化協会ホームページ <https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/41/jigyou-kyoukai.html>

## 7 人形劇のまちづくりの沿革

人形劇のまちづくりは、昭和 54 年の「人形劇カーニバル飯田」に始まる。「人形劇カーニバル飯田」は、平成 10 年 20 回をもって終了し、翌平成 11 年度から「いいだ人形劇フェスタ」に変わったが、毎年夏に行われるこの人形劇の祭典は、人形劇という舞台芸術を地域に広め、人形劇と地域、参加する人達同士が、ふれあい結びあう場となっている。市民が主体的に参加する実行委員会方式で企画運営される「いいだ人形劇フェスタ」は、国内外から約 12,000 人が参加する、世界有数の人形劇の祭典として発展している。

飯田市は、人形劇のまちづくりを進めるために、人形劇公演を行う「飯田人形劇場（昭和 63 年）」、地元の伝統人形芝居を振興する「今田人形の館（平成 6 年）」と「黒田人形浄瑠璃伝承館（平成 11 年）」、日本の人形劇文化を紹介する「竹田扇之助記念国際糸操り人形館（平成 10 年）」と「川本喜八郎人形美術館（平成 19 年）」を整備し、市民が人形劇を鑑賞し、学び、演じる場として活用してきた。このほか、人形劇の心象を表した銅像「ふたり仲よし・りんごを持つ少女（平成 12 年）」の建立も行ってきた。

地育力による心豊かな人づくりに向けて、人形劇の定期的な公演の開催、人形劇制作等のワークショップの実施、小中学校で行われる人形劇活動への支援、伝統人形芝居の継承のための支援などに取り組むなか、平成 23 年度には、人形劇のまちの魅力をさらに高めるため「人形劇のまちづくりを推進する新たな仕組みに関する方針」を策定した。この方針に基づき、市民をはじめ人形劇関係者が一堂に会し意見交換する場である「人形劇のまち飯田」運営協議会の発足（平成 24 年）、人形劇に関する資料の体系的調査と活用できる仕組みの構築に向けた人形劇資料の調査、整理等を行った。

平成 25 年からは、市民、人形劇人、行政の協働の場として設立された「特定非営利活動法人いいだ人形劇センター」が活動を開始。人形劇講座、基礎レッスン、プロデュース作品の制作、市民劇団による定期公演などを行い、人形劇フェスタ期間以外も人形劇が息づくまちをめざして様々な活動を展開している。平成 26 年 4 月からは、同センターが川本喜八郎人形美術館の指定管理を行い、その専門性を活かした活動を展開している。

また、飯田市は人形劇を支援する都市による国際協会として発足した「人形劇の友・友好都市国際協会（以下 AVIAMA）」に加盟し、人形劇文化の更なる発展と地域文化の向上を目指して意欲的な歩みを続けている。平成 30 年には人形劇フェスタ 20 周年の「世界人形劇フェスティバル」に併せて AVIAMA 総会が開催され、人形劇を通じた「小さな世界都市」の実現へ向けて新たな一步を踏み出している。

### 本年度の事業

事 業	概 要
人形劇のまちづくり推進事業	・「人形劇のまち飯田」運営協議会、いいだ人形劇センターへの支援 ・人形とけい塔、人形モニュメントなどの保守管理、活用。
竹田人形館管理運営事業	・竹田扇之助記念国際糸操り人形館の管理運営（常設展、企画展、糸操り人形実演、地域と連携した誘客企画）
いいだ人形劇フェスタ開催事業	・いいだ人形劇フェスタ 2025 の開催 多彩な交流が繰り広げられる日本最大の人形劇の祭典。
伝統人形芝居振興事業	・今田人形、黒田人形の伝承のための研修活動等を支援 ・今田人形の館、黒田人形浄瑠璃伝承館の指定管理による適切な管理
川本喜八郎人形美術館管理運営事業	・川本喜八郎人形美術館の指定管理による適切な運営 ・川本喜八郎人形美術館の適切な管理（直営部分）
人形劇公演開催事業	○いいだ人形劇センター公演事業 ・人形劇鑑賞事業、地元劇団による定期公演、アウトリーチプログラム ○人形劇巡回公演事業 ・小中学校、保育園、認定こども園へ人形劇団を派遣
人形劇創造支援事業	○いいだ人形劇センター創造事業 人形劇講座、基礎レッスン、体験ワークショップ ○子どものための人形劇活動支援事業（学校等で行われる人形劇活動への支援）
人形劇のまち国際化推進事業	・AVIAMA に参加し、人形劇による国際交流の推進 ・シャルルヴィル・メジェール市との国際交流の推進

## 8 数字で見る人形劇カーニバルと人形劇フェスタ

(予算総額の単位は千円)

名称	期 日	劇団数 (内外外)	劇人数 (内外外)	上演 会場数	上演 作品数	ワッペン 種類 売上枚数	観劇者数 (内子ども)	予算総額 (内補助)	主な出来事
人形劇カーニバル	1979 8/11~12 (昭54)	60 (0)	381 (0)	17	44	300 4,150		2,350 (500)	・「西畠人形」「黒田人形」等日本の伝統人形劇の観劇会 ・カーニバル実行委員会発足
	1980 8/8~10 (昭55)	60 (0)	313 (0)	19	49	300 4,328		2,340 (500)	・天童河原で大キャンプファイヤー開く
	1981 8/7~9 (昭56)	88 (3)	524 (3)	20	74	300 5,124		2,320 (500)	・「今田人形座」を観劇 ・アメリカ、ハンガリーからの参加あり ・「市中パレード」始まる
	1982 8/6~8 (昭57)	95 (0)	618 (0)	24	80	300 5,826		3,050 (700)	・地元伝統人形の「かしら展」 ・伝統人形の合同公演 ・文化庁の後援を得る
	1983 8/4~7 (昭58)	114 (0)	651 (0)	34	140	300 7,202		3,230 (700)	・地元の伝統人形劇団が創作劇を発表 ・現代人形劇の観劇会
	1984 8/2~5 (昭59)	112 (0)	729 (0)	41	137	300 7,891	12,447 (2,000)	5,560	・有名な日本の伝統人形劇を集めた観劇会 ・「ウインドー人形展」始まる
	1985 8/1~4 (昭60)	126 (3)	829 (15)	54	150	400 9,203	14,258 (3,500)	8,880	・台湾、ハンガリーなど海外からの上演参加 ・バブ、レストランなどでの大人向けの公演が行われる ・「おまけ付き観劇会」が行われる
	1986 8/7~10 (昭61)	180 (10)	1,311 (44)	56	141	400 17,889	18,946 (10,425)	18,700 (11,000)	・第2回ウニマ、アジア会議をカーニバルと併催 ・地元の伝統人形浄瑠璃後継中学生と台湾の伝統後継小学生との交流会 ・人形劇カーニバルの歌ができる
	1987 8/6~10 (昭62)	191 (6)	1,234 (25)	62	159	400 18,375	22,196 (11,987)	17,760 (8,000)	・アイ、ラブ、ユー国際人形劇フェスティバルを併催 ・カーニバル期間を5日間にふやす
	1988 8/4~8 (昭63)	330 (31)	2,234 (403)	107	288	500 27,008	52,439 (23,080)	91,520 (64,500)	・カーニバル10周年を記念して「世界人形劇フェスティバル」を同時開催 ・大人の観劇者数が子どもを上回る ・人形劇専門劇場が完成。カーニバル初日にオープナ ・各方面から注目と評価を集め、「モービル児童文化賞」「サントリー地域文化賞」「国土庁長官賞」等を受賞 ・フランスのシャルルヴィル・メジエール市と友好都市提携の調印を行う
	1989 8/3~6 (平元)	243 (7)	1,472 (24)	80	201	500 20,396	39,588 (21,394)	20,820 (9,000)	・アイ、ラブ、ユー国際人形劇フェスティバルを併催 ・各地の自治体関係者を集め、「地域づくり文化フォーラム」を開催 ・「全国の人形劇人大会」を併催
	1990 8/2~5 (平2)	271 (8)	1,954 (38)	81	220	500 18,924	40,519 (20,958)	23,160 (9,000)	・特別観劇公演はじまる ・人形劇のワークショップ(講座)始まる(18講座) ・アイ、ラブ、ユー国際人形劇フェスティバルを併催 ・地域文化フォーラムを開催
	1991 8/1~4 (平3)	260 (6)	1,877 (37)	79	215	500 18,891	40,728 (21,546)	24,230 (9,000)	・アイ、ラブ、ユー国際人形劇フェスティバルを併催 ・国際交流基金地域交流振興賞を受賞 ・カーニバルステーションに市民プロジェクトが関わり、市民の催事となる
	1992 8/6~9 (平4)	265 (11)	1,881 (46)	80	209	500 17,694	33,070 (16,645)	24,258 (9,000)	・観劇者数の集計方式変更(延べ観劇者の複数計算を単純延べ人数に) ・ワークショップの受講者数大幅に増加。特に人形劇人以外の受講生が増える ・人形劇のまちづくりに向かっての研究が始まる
	1993 8/5~9 (平5)	307 (16)	1,981 (47)	90	268	700 16,742	32,973 (17,162)	36,135 (15,000)	・第15回記念モニエメント制作(過去10回以上上演参加の劇団を表彰) ・世界の大通人形劇大会 ・飯田青年会議所が台湾の呂光国民小学の劇団を招待、竜丘小学校と交流を行う ・ワークショップ26講座に増加
	1994 8/4~7 (平6)	284 (12)	1,963 (66)	88	239	700 16,413	32,357 (16,034)	30,070 (13,000)	・人形劇のまちづくり係ができ、人形劇カーニバルの専門的な係が誕生 ・海外、特にアジア地域からの自主参加が増える ・日本觀光協会より「第1回新しい観光地づくり賞」を受賞
	1995 8/3~6 (平7)	300 (6)	1,837 (47)	90	211	700 15,977	31,735 (15,445)	30,518 (14,000)	・ウニマ、アジア太平洋委員会開催 ・アジアの広場をつくり、人形劇や民族音楽のパフォーマンスを行う。飯田在住の人たちが参加 ・ワークショップ30講座に増える
	1996 8/1~4 (平8)	301 (13)	1,883 (68)	88	230	700 14,849	31,276 (15,696)	31,400 (15,000)	・韓国からの自主参加劇団が大幅に増える ・20回記念に世界人形劇フェスティバル開催を決定 ・初めて飯田市より正式にウニマ世界大会に教育委員長や職員を派遣
	1997 8/7~10 (平9)	283 (11)	1,694 (40)	90	231	700 14,867	32,285 (16,938)	32,114 (16,000)	・市内からの参加劇団増加(31劇団)。小中学校からの参加(15校、16劇団) ・新しいシンボルマークとロゴを決定
	1998 8/2~9 (平10)	379 (20)	2,421 (118)	94	293	700 18,922	51,532 (22,890)	144,400 (116,700)	・世界人形劇フェスティバルを併催。海外12、国内23、伝統11の劇団を招待 ・「第10回中部文楽サミット」を同時開催 ・「竹田扇之助記念国際糸操り人形館」が完成。期間中記念展示を開催 ・人形劇人委員会解散。人形劇カーニバル飯田を一旦終了し、新たな人形劇の祭典に移行することとする

名称	期日	劇団数 (内外)	劇人数 (内外)	上演会場数	上演作品数	ワッペン 値段	観劇者数 (内子ども)	予算総額 (内補助)	主な出来事
人形劇フェスティバル	1999 8/5~8 (平11)	264 (10)	1,488 (86)	92	226	700 14,309	34,614 (17,526)	35,850 (20,000)	・「いいだ人形劇フェスタ」として再出発。市民と人形劇人が主体となった人形劇の祭典をめざす ・「みる 演じる ささえる わたしがつくるトライアングルステージ」をテーマに決定する ・参加形態をA、B、Cの3タイプに分類 ・「自主企画」、「地区企画公演」始まる
	2000 8/3~6 (平12)	285 (5)	1,590 (37)	100	282	700 13,469	33,936 (12,878)	46,860 (18,000)	・A公演（プロ劇団による有料公演）増える ・人形劇場前に「ふたり仲良し」、飯田駅前に「りんごを持つ少女」の像完成 ・周辺4町村でのプレフェスタ開催 ・図書館で「かこさとしの世界」展 in 飯田を同時開催
	2001 8/2~5 (平13)	330 (9)	1,623 (59)	100	269	700 13,336	34,800 (15,333)	44,645 (20,000)	・日本チエコ現代人形劇共同制作「ロミオとジュリエット」上演 ・有料公演の観客の7割以上が大人による観劇 ・マルガレータ・ニコレスク・ウニマ会長を迎え、人形劇21世紀会議が開催された（15年ぶり） ・地区拠点会場方式を採用する
	2002 8/1~4 (平14)	287 (6)	1,534 (6)	103	252	700 12,984	37,980 (18,224)	45,365 (20,000)	・「家族発見祭」をテーマにして3年目、有料公演に家族割引券を設定し、家族での観劇を支援。人形劇を通じた家族のふれ合いをテーマにした作文も募集。 ・セントラルパークを会場に関西系人形劇団による連続公演、「関西ナイトフィーバー」を開催。人形劇表現の新たな世界として盛り上がりを見せる。 ・参加証ワッペンが「オマケつき」に。期間中の市民バス割引乗車や、美術博物館等の通年フリー入館（高校生以下）などの特典がつく。 ・上郷黒田人形伝承館で、米国ペレア大学「ペレア山心団」と黒田人形座が人形浄瑠璃のジョイント公演。日本の伝統芸能を通じた国際交流の場に。
	2003 8/7~10 (平15)	274 (0)	1,543 (0)	106	275	700 13,270	33,381 (15,786)	43,988 (19,000)	・新型肺炎（SARS）の影響で、当初計画していた「アジアフェスティバル」が中止となる。 ・台風10号にまわされ、土曜日の屋外イベントを中心に中止や変更を余儀なくされた。 ・「大人が演じし人形芝居」を特集し、飯田の芸者衆との共演によるお座敷での人形劇公演も行われた。 ・NHK50周年の共同企画として、「ひょっこりひょうたん島」開催の公演や展示が行われた。 ・オバケ屋と二胡奏者によるコンサートや川本喜八郎氏の人形アニメーションなど協賛企画が充実した。
	2004 8/5~8 (平16)	289 (9)	1,603 (50)	117	332	700 12,565	38,612 (17,417)	47,110 (24,000)	・アジア、ケベックなど海外の人形劇団が高い存在感を示した。また、広域公演でも海外作品が上演された。 ・昨年に引き続き、大人向の人の人形劇が料亭のお座敷やホテルのバンケットルームでも展開され好評であった。公演形態として定着した感がある。 ・フェスティバル委員会と台湾劇団により、2002年から制作を始め日本台湾合作人形劇「動物整形外科病院」が公開された。 ・かざして子どもの森公園において、紙芝居を中心とした「森の紙芝居劇場」が行われた。 ・有料公演プログラムがサイズアップされるとともにカラーになり見やすくなった。
	2005 8/4~7 (平17)	291 (10)	1,655 (71)	115	347	700 12,856	44,460 (18,731)	46,737 (19,000)	・昨年に引き続きアジアの人形劇団（韓国・台湾）を招聘し人形劇を通じた近隣諸国との交流を深めた。またこれにより、関係国の人形劇フェスティバルの連携についての話合いがはじまった。 ・フランスとクロアチアの若手人形劇プレイヤーを招聘し、ヨーロッパ人形劇の新しい流れを紹介した。 ・子どものための特別企画として「はじめて出会う人形劇」「一日まるごとキッズワールド」を行い、予想を超える反応を得た。 ・子どもと人形劇の出会いの原点を見つめなおす企画展として「1950年代を切り拓いた劇人形たち」を飯田美術博物館で開催した。 ・セントラルパークでの催事を見直し、「お祭り広場」としての要素を大切にするとともに、地域の文化紹介や国際交流の場としての機能を強化した。
	2006 8/3~6 (平18)	312 (9)	1,843 (79)	134	413	700 13,646	46,787 (21,476)	47,644 (19,000)	・大手劇団によるホール級の大型人形劇を特集し、大きな反響を呼んだ。日本を代表する人形劇フェスティバルとしてのグレードを内外に示すことができた。 ・人形劇表現にスポットをあてたこれまでにない挑戦的なステージを展開。新たな人形劇の世界に踏み込んだ。 ・子どものための特別企画として「はじめて出会う人形劇」「一日まるごとキッズワールド」を行い、昨年以上の反応と成果を得た。 ・アメリカのミズーリ大学35名が、約2ヶ月間の人形浄瑠璃研修（今田・黒田）の成果発表の場としてフェスティバルに出演し、好評を得た。 ・アマチュア人形劇団特集として、全国の公立劇場や団体の推薦を受けた4団体が公演。観客の関心も高く、今後の関係団体との連携やアマチュア人形劇団の活性化に繋がるものとなった。 ・アジアの人形劇団（韓国・台湾）を招聘し人形劇を通じた交流を深めた。2008年にフェスティバル同士の市民レベルでの友好提携に関する調整を行った。 ・総合プログラムが飯田まつり・りんごんプログラムと統合され、全ページカラー化が実現した。飯田の夏まつりとして的一体感につながった。
	2007 8/2~5 (平19)	291 (7)	1,658 (57)	125	359	700 13,728	47,864 (21,964)	45,442 (24,000)	・セントラルパークの特設ステージをリニューアル、多様な舞台表現を可能にするステージ環境を整備した。 ・アジアの人形劇団（韓国・台湾）を招聘し人形劇を通じた交流を深めた。 ・学校における人形劇活動をテーマとしたバネルディスカッションを行い、子どもたちが人形劇を演じる意義を確認できた。 ・長年続けてきたワインドー人形展を、各個店が歓迎の気持でそれぞれ工夫して飾りつけを行なうエカルカム人形展に変更した。参加店舗数は減ったが、参加店は創意工夫により意欲的な展示を行った。駆け付に際して、飯田女子短期大学せいの協力が得られた。 ・人形劇の大きさの違いに着目した特集を行い、ビッグなスケールでゆったりと楽しむ人形劇から、順番待ちをして少人数で楽しむ人形劇の違いを紹介した。 ・アマチュア映画の特集（連続公演、ワークショップ）を地元市民と参加劇団が企画運営し、大きな反響を得るとともに、映画を行なう交遊の場となった。 ・アマチュア人形劇特集として、全国の公立劇場や団体の推薦を受けた3団体が公演。観客の関心も高く、アマチュア劇団の活性化にも繋がるものとなった。
	2008 8/2~10 (平20)	390 (22)	2,134 (103)	151	607	700 18,156	71,564 (31,561)	101,816 (66,400)	・人形劇フェスティバル10周年、前身の人形劇カーニバルから通算して30周年の節目となるため、期間を9日間に延長して世界人形劇フェスティバルを開催した。 ・近年交流を続いている韓国の春川人形劇祭（春川人形劇場出席）、台湾の雲林国際人形劇フェスティバル（雲林県知事出席）の開催者を招いて、友好提携式を開催し更なる友好の確認を行った。 ・今年で10回ある「つながってく」を意識して、人形劇のまち30年を振り返るメインセレモニーを開催し、子どもたちが参加する創作パフォーマンスと、今田人形座が中心となり25年ぶりに「小太郎物語」を上演し、盛大に節目を祝うことであった。 ・子どもと人形劇に関する国際シンポジウムを開催し、ドイツ・アメリカ・台湾・日本から参加したシンポジストにより、子どもが人形劇を演じる意義や各国の取り組み状況についての話し合いを行った。 ・人形劇公演では、海外の優れた人形劇、一人芝居・糸操り・伝統人形芝居の特集、初めて出会う人形劇、一日まるごとキッズワールド、フレンジシアター・人形劇の家の上演など多様な展開をしました。 ・期間中の平日に、保育園公演や幼稚園の団体劇場を行い、幼児期に良い人形劇に接する機会を提供することができたが、一部で入場制限を行なざるを得なくなり、ワッペン方式での兼ね合いの中で課題を残すことになった。 ・突然の雷雨により、わいわいパレードの中止を余儀なくされた。節目を飾るパレードとなるよう、様々な準備を進めていただけに、非常に残念であった。
	2009 8/6~9 (平21)	334 (5)	1,680 (39)	134	403	700 14,370	50,039 (23,797)	54,126 (18,000)	・テーマを「やっぱり人形劇、おもしろい。」として、人形劇の面白さを追及する企画を開催した。不況や新型インフルエンザの影響が心配されたが、4日間のフェスタとしては、ワッペン販売数や観劇者数が過去最高となるなど賑わいのあるフェスティバルとなった。 ・特集として「大人のためのエンターテインメント」を位置づけ、大人が楽しめる人形劇を選考したが、早い時期に有料公演チケットが完売となる作品が出来るなど好評だった。 ・腹話術の「いつこく堂」は、その知名度から早期にチケットが売り切れになるなど、今年の話題となった。多様な年齢層の観客があり、人形劇フェスタの視野をさらに広げる企画となった。 ・初参加となったスペインの「オウ&マラビージャス」は、人形劇とフラメンコとのコラボレーションによる異色のステージだったが、多くの観客を魅了する感動のステージであった。 ・アマチュア人形劇特集として、プロ劇団が推薦する4団体が公演。観客の関心や期待も高くアマチュア劇団の活動の活性化に繋がる企画となった。 ・子どものための企画として定着してきている「初めて出会う人形劇」は、6作品12公演が行われるなど、充実した企画となつた。 ・第1回回信毎賞を「いいだ人形劇フェスタ実行委員会」が受賞し、セントラルパークでのオープニングセレモニーでその披露を行った。 ・いいだ人形劇フェスタ10周年記念誌「つながってく。～人形たちと歩んだ30年～」を編集発行した。
	2010 8/5~8 (平22)	350 (8)	1,828 (55)	135	453	700 13,478	43,838 (20,422)	41,097 (18,000)	・0・1・2才のための人形劇を特集し、8作品の公演と研究会を開催。 ・市内の幼稚園・保育園の園児たちが作った人形が、4店舗のエカルカム人形展に登場。 ・韓国の人形劇を紹介する現代人形劇を見た。多くの観客に衝撃と感動を与えた。 ・ボーラ伝統文化振興財団制作の映画「伊那人形芝居一目見へなぐ伝承のチカラ」の上映と三隅治雄氏の講演を開催。 ・人形劇構造に着目した特集を開始。第1回は竹田人形館を会場に糸操り人形劇8作品を紹介し、併せて演者から糸操りについての話をお聞きした。

名称	期日	劇団数 (内外)	劇人数 (内外)	上演会場数	上演作品数	ワッペン 値段	観劇者数 (内子ども)	予算総額 (内補助)	主な出来事
人形劇フェスティバル	2011 8/4~7 (平23)	357 (9)	1,837 (58)	131	467	700	13,624	47,575 (22,227)	・特集「もう一度見たい」はこれまで上演された作品から、特にリクエストのあったもののうち3作品を上演した。 ・人形の構造に着目した特集「シリーズ『人形の構造を知る』第2回」ではオブジェクトシアターを取り上げて国内・海外の劇団による作品を紹介した。 ・日本の人形劇界に多大な功績を残し2010年に亡くなられた丹下進氏を偲び、「丹下進作品特集」を実施。全国から劇団が参加し連続公演を行った。 ・東日本大震災「被災地訪問公演」のためのチャリティ公演、募金活動を行い、多くの市民、劇人の皆様にご協力をいたしました。フェスティバル終了後、12月に宮城県東松島市の保育所などで「ましゅ&Kawaii」が公演した。 ・海外劇団の充実を図り、「アマチュア」のための北欧演劇フェスティバルほか多彩な作品を紹介した。
	2012 8/2~5 (平24)	340 (9)	1,724 (80)	134	447	700	12,124	40,025 (18,714)	45,995 (23,000) ・特集「スマートカーニバル」。美術博物館プラネタリウムヒューマン形劇のコラボレーション、浪曲と糸操り人形、「Rock'n Puppets Show」など、いいだ人形劇フェスティバルでは企画が好評を博した。 ・海外から7カ国9劇団が上演参加。多彩な人形劇が上演され、有料公演、ワッペン公演とも多くの人に観劇してもらえた。 ・影絵公演。海外劇団、国内のプロ・アマチュア劇団が織細で美しい作品を上演した。屋外での上演、地区の企画(ワークショップ・成果発表)もあり、さまざまな影絵を楽しめる機会となつた。 ・情報発信のツールとしてツイッターを活用。今後も拡散性、即時性といった特性を生かした情報発信や年間を通じたPR活動に役立てるよう検討する。
	2013 8/6~11 (平25)	376 (14)	1,884 (148)	132	509	700	13,318	47,033 (20,843)	62,000 (44,650) ・フェスティバル5周年を記念してアジア人形劇フェスティバルを開催した。 ・東・アジア三大人形劇フェスティバル友好提携の5周年を記念して交流公演を実施。飯田(日本)、春川(韓国)、雲林(台湾)のそれぞれが推薦する劇団が上演した。 ・アジアの人形芝居相互交流ワークショップを開催。フェスティバル開幕の10日前からアジア4カ国のアーティストが滞在し、各国の芸能も学び合った。今田人形、黒田人形、上茶屋獅子舞保存会も講師として参加した。 ・NPO法人いいだ人形劇センターの企画として「世界の人形劇情報コーナー」を設置した。 ・「アジアの人形芝居—その歴史・現在・未来」をテーマに、企画展示とシンポジウムを開催した。 ・6歳以下の児童を対象に行なったフィギュアシアター・ワークショップの成果発表公演を開催した。
	2014 8/5~10 (平26)	371 (6)	1,918 (29)	138	498	700	13,206	46,328 (19,015)	51,600 (28,000) ・通常の開催年では初めての6日間開催とした。 ・アマチュア人形劇活動が盛んな北海道にスポットを当て「人形劇 北海道フェア」として特集。北海道出身の世界的アーティストを含むプロ劇団からアマチュア劇団までが上演。また活動の紹介展示や座談会などを開催した。 ・前年度より本格的に活動を開始したNPO法人いいだ人形劇センターの企画として「バベットエンターテインメント人形劇の笑いを通して考える」バネルディスカッションを開催。また出張体験ワークショップとして、こま撮りアニメの撮影体験を開催した。 ・最終日の日曜日、長野県知事選挙の投票日と重なった。また、台風11号の接近により上演中止になった会場があったり。セントラルパークでの上演時間や出店時間の短縮等影響を受けたが大きな被害はなかった。
	2015 8/4~9 (平27)	371 (6)	1,745 (57)	137	457	700	12,088	40,575 (16,894)	58,700 (33,700) ・昨年の「人形劇 北海道フェア」に引き続き、ご当地特集として「愛知の人形劇」を特集。オブジェクトパフォーマンスなど、先進的な人形劇から伝統人形劇まで大勢の観客が魅入った。 ・台湾からの人形劇交流30周年を記念して「いいだ人形劇フェスティバル」。台湾布袋戲交流30周年記念企画を実施。三昧堂創意木偶團隊と新興劇場中劇団の2劇団を招請し、上演・展示・パフォーマンスなどを実行した。 ・人形劇カーニバル飯田の誕生からいいだ人形劇フェスティバルに至るまでお世話になった、故・宇野小四郎さんの功績を偲び「人形劇研究家 宇野小四郎追悼公演」を開催。上演には縁のある方達とのトークも行った。 ・カーニバルから40回、フェスティバルから20回を迎える平成30年度に、『世界人形劇フェスティバル』を開催することを決定した。
	2016 8/2~7 (平28)	372 (11)	1,745 (67)	140	520	700	11,679	39,512 (15,802)	54,800 (30,800) ・「関西の人形劇」特集を実施。関西の劇団63劇団が上演参加し通常の有料公演、ワッペン公演のほか、アマチュア劇団による連続公演など賑やかな公演が行われた。 ・初日の午前中に飯田文化会館ホールでオープニングセレモニーを実施。セレモニー後にはオープニング公演として、特集作品の中から人形劇団京芸の「漫才の星なるんや」の公演を実施した。 ・ボーランドのアマツィ劇場との国際共同制作を実施。ボーランド・日本の役者が出演する「四季《ボーランド》」を制作し、フェスティバル2016に初演。その後、東京公演、ボーランド公演を実施した。 ・NPO法人いいだ人形劇センタープロデュース、沢則行監督による巨大人形劇「さんしょううお」のでも上演を実施。飯田から世界に発信する人形劇として多くの注目を集めた。
	2017 8/1~6 (平29)	360 (11)	1,765 (67)	142	507	700	11,597	41,647 (17,725)	53,300 (32,240) ・「関東の人形劇」特集を実施。横かしのTV人形劇「ひよっこりひょうたん島」公演や関東の人形劇フェスティバルが企画する連続公演などが注目を集めた。また、関東地方の伝統人形芝居を紹介する公演では、初参加の湘南座、川野車人形、結城座が上演した。 ・NPO法人いいだ人形劇センターによる巨大人形劇「さんしょううお」の完成版を上演、4回公演で約2000人が観劇。飯田から世界に発信する人形劇として多くの注目を集めた。 ・札幌市などの劇場やまちこ座との協働により、札幌の人形劇8作品の公演を行った。野外人形劇ビノキオには公募出演者として飯田の親子12人も出演した。
	2018 8/3~12 (平30)	410 (29)	2,074 (218)	165	631	700	15,236	60,649 (24,972)	102,700 (74,700) 人形劇のまちが生まれて40年を記念して世界人形劇フェスティバルを開催。世界の六大州全て(18の国と地域)から28劇団が上演參加した。 全国高等学校総合文化祭、AVIAMA総会、友好都市30周年記念事業を併催。 トローザの巨人(スペイン)、巨大人形劇さんしよううお等が注目を集めた 猛暑対策で公演実施可否の判断基準を定め、セントラルパークで公演を中止した。 ボーランドの劇場との共同制作作品「4つの季節の物語」の国内ツアーを実施。
	2019 7/31~8/5 (令元)	331 (8)	1,640 (54)	145	446	700	12,028	34,870 (15,178)	45,525 (23,000) 札幌の2つの劇場「やまとこ座」「こぐま座」より若者を中心とした6劇団による連続公演のほか、観客移動型人形劇「テンペスト」などを上演。特に「テンペスト」では飯田・下伊那からの出演者募集を行い、キャストとして参加する新たな連携の場を創出した。 伝統人形芝居では、青森県の「津軽伝統金多豆藏人形一座」など全国から4劇団が参加。飯田市からも中学生による人形浄瑠璃等5劇団による公演が実施。 人形劇センタープロデュース人形劇の人魚姫は4年ぶりの再演となり、2回公演、全席完売。 公演前後に舞台裏見学や写真撮影、ワークショップなど劇人と観客やスタッフが交流できる機会を設けた。 雨のため、わいわいパレードを中止した。
	2020 8/6~8/10 (令2)	—	—	—	—	—	—	8,172	新型コロナ感染拡大防止のため「中止」 代替企画としてフェスティバル2020で公演予定だった国内22劇団のPR動画を、フェスティバルのメッセージとともにWEBで配信。 学校人形劇の発表の場として、フェスティバル地区公演実行委員会と飯田市公民館の主催による、学校人形劇の祭典2020を開催し、市内の小中学校6校の人形劇クラブ等が参加。
	2021 8/5~8/8 (令3)	59 (0)	628 (0)	38	112	700	4,062	5,290 (2,649)	18,470 (8,992) 新型コロナウイルス感染症対策を講じての開催。 上演する劇団、観客ともに長野県内の方に限定。 飯田下伊那地域外からの劇団、観客へ、抗原検査キットによる検査を実施。 開催前から期間中にかけ、長野県感染レベルが4となった圏域(長野・佐久・松本)からの劇団が参加できなくなった。 黒田伝承館と竹田人形館への巡回バスの運行を行った。
	2022 8/4~8/7 (令4)	—	—	—	—	—	—	38,020 (13,752)	新型コロナ感染拡大防止のため「中止」。 学校人形劇の発表の場として、フェスティバル地区公演実行委員会と飯田市公民館の主催による、学校人形劇の祭典2020を開催し、市内の小中学校6校の人形劇クラブ等が参加。 フェスティバル2023に向けた人形劇の特別公演の開催。
	2023 8/3~8/6 (令5)	237 (8)	1,319 (57)	107	362	700	9,374	23,255 (9,512)	38,937 (18,000) コロナ禍により縮小・中止とフェスティバルの開催が制限された期間を経て、4年ぶりに通常開催として実施した。 海外からは、友好提携を結んでいた韓国から5劇団、台湾から3劇団計8劇団が参加した。 伝統人形芝居では、受け継がれてゆく伝統人形芝居と題し、飯田にもゆかりのある竹田人形座で芸を磨いた「江戸糸あやつり」を継承する3劇団による上演を実施。また、飯田市の中学生劇団も参加し人形浄瑠璃を3劇団が公演した。
	2024 8/1~8/4 (令6)	258 (7)	1,318 (49)	109	378	700	9,621	26,575 (10,654)	31,491 (18,000) 海外からは、友好提携を結んでいた韓国、台湾他、世界から6か国計7劇団が参加した。 近年の暑さ対策のため、中央公園で行っていたフェスティバルストラーレルパークをムストスラガ2Fへ変更して実施した。 これまで雑誌としてそれぞれ発行していた、有料公演ガイド、プログラム、ガイドブックを併せて「ガイドブック」として発行した。

## 9 竹田扇之助記念国際糸操り人形館

約340年の歴史を持つ糸操り人形芝居「竹田人形座」の人形や資料、国内外で収集したコレクション、再建された竹田練場が、竹田扇之助氏から飯田市に寄贈されたことに伴い、これを保存するとともに展示し、糸操り人形芝居を伝承することを目的に、人形劇のまち飯田の拠点施設として平成10年8月1日に開館した。

- (1) 所在地 飯田市座光寺2535番地  
(2) 建物の構造 鉄筋コンクリート造2階建  
(3) 建物の面積 594.7m<sup>2</sup>  
(4) 施設の内容 舞台・展示ホール、展示室など  
(5) 休館日 月曜日（祝日開館）、祝日の翌日、年末年始（12月29日～1月3日）  
(6) 開館時間 午前9時から午後5時まで  
(7) 観覧料 大人個人400円・団体300円、小中学生・高校生個人200円・団体150円  
(団体は20人以上)

	有料入館者			減免(100%)入館者			総入館者		
	大人	子ども	計	大人	子ども	計	大人	子ども	計
H22年度	1,829	35	1,864	1,328	737	2,065	3,157	772	3,929
H23年度	1,478	29	1,507	665	350	1,015	2,143	379	2,522
H24年度	1,730	47	1,777	789	600	1,389	2,519	647	3,166
H25年度	1,347	21	1,368	460	261	721	1,807	282	2,089
H26年度	1,525	47	1,572	947	478	1,425	2,472	525	2,997
H27年度	2,703	105	2,808	1,448	790	2,238	4,151	895	5,046
H28年度	1,700	68	1,768	1,356	711	2,067	3,056	779	3,835
H29年度	1,888	51	1,939	1,061	615	1,676	2,949	666	3,615
H30年度	1,452	35	1,487	1,178	627	1,805	2,630	662	3,292
R01年度	1,258	48	1,306	1,724	651	2,375	2,982	699	3,681
R02年度	805	40	845	367	272	639	1,172	312	1,484
R03年度	767	67	834	535	287	822	1,302	354	1,656
R04年度	1,437	80	1,517	759	164	923	2,196	224	2,440
R05年度	954	40	994	844	263	1,107	1,798	303	2,101
R06年度	1,468	177	1,645	1,113	271	1,384	2,581	448	3,029

## 10 飯田市川本喜八郎人形美術館

世界的な人形美術家・川本喜八郎氏が制作したNHK人形劇「三国志」や「平家物語」、人形アニメーションの人形など約200点を収蔵、展示しており、館内には人形を展示するギャラリー、企画展示やワークショップに対応するスタジオ、人形アニメーション作品を鑑賞できる映像ホールなどがある。川本氏の優れた人形美術を広く公開するとともに、人形劇のまち飯田の拠点施設として平成19年3月25日に開館した。平成26年度から指定管理者制度を導入し、特定非営利活動法人いいだ人形劇センターを指定管理者に選定した。

- (1) 所在地 飯田市本町1丁目2番地  
(2) 建物の構造 鉄筋コンクリート造3階建  
(3) 建物の面積 約1,193.17m<sup>2</sup>（専用部分）  
(4) 施設の内容 ギャラリー（展示室）、スタジオ（体験室）、映像ホール、交流ゾーンなど  
(5) 休館日 水曜日（祝日開館）、年末年始（12月29日～1月3日）  
(6) 開館時間 午前9時30分から午後6時30分まで（映像ホール、交流ゾーンは午後10時まで）  
(7) 観覧料 大人個人400円・団体300円、小中学生・高校生個人200円・団体150円  
(団体は20人以上)

	有料入館者			減免(100%)入館者			総入館者		
	大人	子ども	計	大人	子ども	計	大人	子ども	計
H22 年度	25, 419	1, 008	26, 427	4, 206	1, 386	5, 592	29, 605	2, 414	32, 019
H23 年度	20, 118	496	20, 614	3, 805	1, 983	5, 788	23, 923	2, 479	26, 402
H24 年度	20, 138	725	20, 863	4, 361	1, 542	5, 903	24, 499	2, 267	26, 766
H25 年度	22, 488	513	23, 001	5, 176	1, 589	6, 765	27, 664	2, 102	29, 766
H26 年度	19, 246	569	19, 815	6, 182	1, 561	7, 743	25, 428	2, 130	27, 558
H27 年度	22, 372	515	22, 887	6, 849	1, 528	8, 377	29, 221	2, 043	31, 264
H28 年度	16, 513	475	16, 988	5, 168	885	6, 053	21, 681	1, 360	23, 041
H29 年度	12, 217	496	12, 713	4, 962	1, 545	6, 507	17, 179	2, 041	19, 220
H30 年度	11, 779	477	12, 256	5, 530	886	6, 416	17, 309	1, 363	18, 672
R01 年度	10, 177	527	10, 704	5, 124	739	5, 863	15, 301	1, 266	16, 567
R02 年度	4, 030	452	4, 482	1, 136	190	1, 326	5, 166	642	5, 808
R03 年度	3, 983	531	4, 514	1, 283	713	1, 996	5, 266	1, 244	6, 510
R04 年度	6, 897	534	7, 431	2, 221	408	2, 629	9, 118	942	10, 060
R05 年度	7, 147	460	7, 607	3, 729	566	4, 295	10, 876	1, 026	11, 902
R06 年度	7, 561	394	7, 955	4, 242	493	4, 735	11, 803	887	12, 690

## 11 飯田市今田人形の館

宝永元年（1704 年）より伝わる伝統人形浄瑠璃「今田人形芝居」の保存と継承を行ない、伝統人形劇の研修の場、後継者の育成の場として活用するとともに、地域住民相互のコミュニケーションの場としても活用することを目的に、人形劇のまち飯田の拠点施設として平成 6 年 4 月 1 日に開館した。平成 22 年度から指定管理者制度を導入し、今田人形の館運営委員会を指定管理者に選定した。

- |           |                                |
|-----------|--------------------------------|
| (1) 所在地   | 飯田市龍江 3451 番地 1                |
| (2) 敷地面積  | 1, 106 m <sup>2</sup>          |
| (3) 建物の構造 | 木造一部鉄骨造瓦葺き平屋建                  |
| (4) 建物の面積 | 476. 97 m <sup>2</sup>         |
| (5) 施設の内容 | 舞台、客席、展示室、研修室、会議室、人形倉庫、大道具倉庫など |

## 12 飯田市黒田人形浄瑠璃伝承館

元禄年間（1688 年～1704 年）より伝わる伝統人形浄瑠璃「黒田人形芝居」の保存と伝承を行ない、伝統人形劇の研修の場、後継者の育成の場として活用するとともに、伊那谷四座の交流と発表の場としても活用することを目的に、人形劇のまち飯田の拠点施設として平成 11 年 7 月 8 日に開館した。平成 22 年度から指定管理者制度を導入し、黒田人形保存会を指定管理者に選定した。

所在地が、黒田神社及び重要有形民俗文化財である下黒田の舞台に隣接する場所であるため、伝統人形浄瑠璃の雰囲気や周辺の環境に配慮し、木材は全て国産材を使用した木造建築である。

- |           |  |
|-----------|--|
| (1) 所在地   | 飯田市上郷黒田 2344 番地 2  |
| (2) 敷地面積  | 2, 855. 77 m <sup>2</sup>  |
| (3) 建物の構造 | 黒田人形浄瑠璃伝承館 木造瓦葺き平屋建<br>人形収蔵庫 木造 2 階建て                            |
| (4) 建物の面積 | 黒田人形浄瑠璃伝承館 496. 53 m <sup>2</sup><br>人形収蔵庫 33. 12 m <sup>2</sup> |
| (5) 施設の内容 | 舞台、客席、控室、会議室、蔵など   |

## 13 人形劇を通じた国際的な文化交流

人形劇に関する国際組織と連携し、人形劇のまち飯田の情報発信を行う。

- AVIAMA（人形劇の友・友好都市国際協会）の副会長を市長が務め、毎年開催される総会、理事会、役員会に参加している。最近は、現地での参加、オンライン（ZOOM）参加と各会員都市は、都市の都合に合わせて参加している。また、令和 4 年 5 月から、海外との渉外能力の高い職員を文化会館に配置し、友好都市を提携しているシャルルヴィル・メジェール市との更なる親交を図ると共に、AVIAMA との国際的なネットワークの強化、人形劇を通じた国際交流の機会の充実や情報発信に努めている。